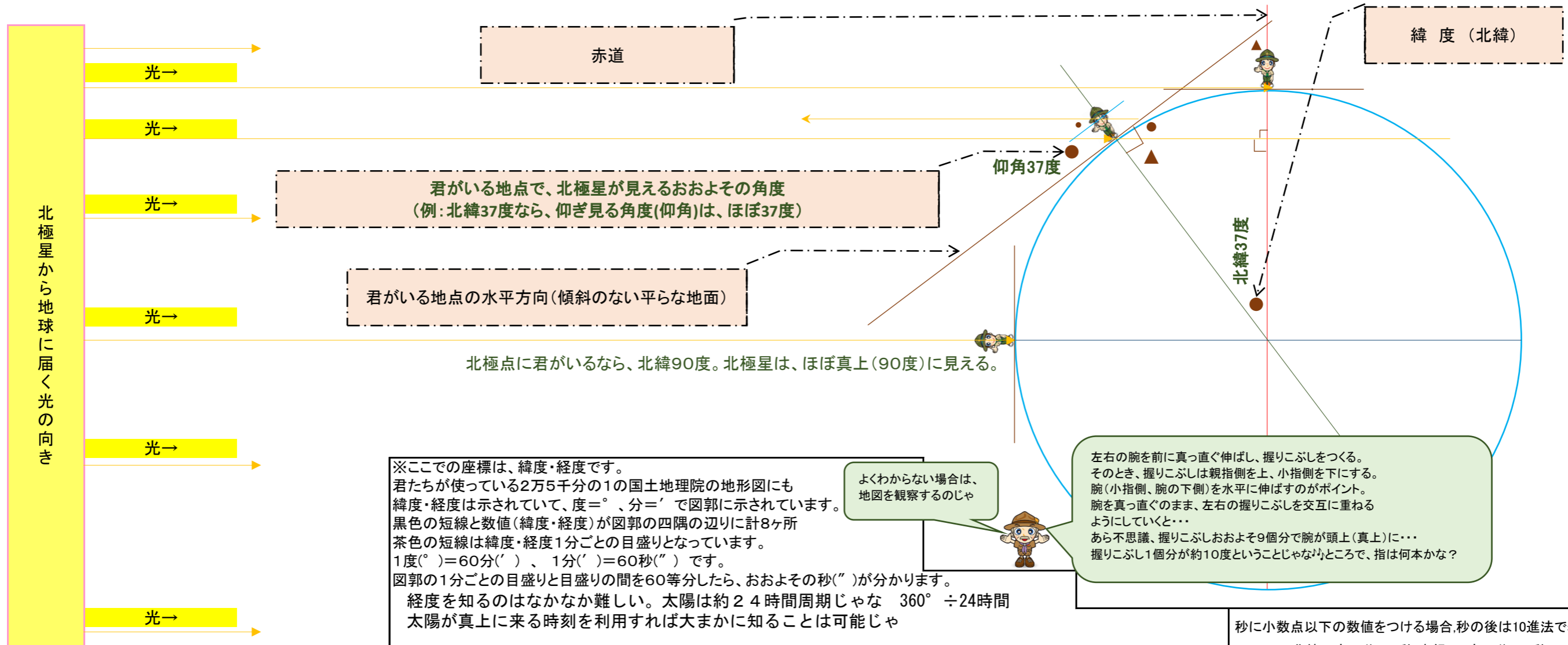


AやBの地点(観測点)から黄色い丸を見て、その方向を指差した場合、黄色い丸から遠ざかるほど、Aの指差す方向とBの指差す方向が、平行に近づいているのが分かるだろうか

黄色い丸が、星であるとすれば、指差した方向から、星の光が届いているということである。

北極星は、地球から非常に遠くにあるので、北極星から地球へ届く光は、地球上のどの地点においても、平行に届いていると考えて差し支えない(誤差は極めて小さく、無視できる)。

赤道に君がいるなら、北緯0度。北極星は、ほぼ水平方向(0度)に見える。



君がいる地点で、北極星が見えるおおよその角度  
(例:北緯37度なら、仰ぎ見る角度(仰角)は、ほぼ37度)

君がいる地点の水平方向(傾斜のない平らな地面)

北極点にいるなら、北緯90度。北極星は、ほぼ真上(90度)に見える。

※ここでの座標は、緯度・経度です。  
君たちが使っている2万5千分の1の国土地理院の地形図にも緯度・経度は示されていて、度=°、分='で図郭に示されています。黒色の短線と数値(緯度・経度)が図郭の四隅の辺りに計8ヶ所。茶色の短線は緯度・経度1分ごとの目盛りとなっています。1度(°)=60分(')、1分(')=60秒(")です。図郭の1分ごとの目盛りと目盛りの間を60等分したら、おおよその秒(")が分かります。

よくわからない場合は、地図を観察するのじゃ

左右の腕を前に真っ直ぐ伸ばし、握りこぶしをつくる。そのとき、握りこぶしは親指側を上、小指側を下にする。腕(小指側、腕の下側)を水平に伸ばすのがポイント。腕を真っ直ぐのまま、左右の握りこぶしを交互に重ねるようにしていくと... あら不思議、握りこぶしおおよそ9個分で腕が頭上(真上)に... 握りこぶし1個分が約10度ということじゃな!ところで、指は何本かな?

経度を知るのはなかなか難しい。太陽は約24時間周期じゃな 360°÷24時間 太陽が真上に来る時刻を利用すれば大まかに知ることは可能じゃ

ボーイスカウトでは横縦に線を引いて正方形を描き、横3桁・縦3桁の6桁、又は横4桁・縦4桁の8桁で座標を読みますが、一般的には緯度・経度で表現しないと位置情報は伝わりません。

秒に小数点以下の数値をつける場合、秒の後は10進法で表示。  
北緯32度53分24.6秒 東経145度52分43.2秒  
(北緯32度53分24秒6 東経145度52分43秒2)

注:実際の北極星の位置は、若干ずれがあります。

北極星(現在はポラリス)  
大昔の北極星、そして遠い遠い未来の北極星は、違う星じゃぞ  
興味がある者は、調べてみるのじゃ

